

第16期 第6回男女共同参画センター運営委員会 会議要録

- 1 日時 令和元年10月9日(水) 午後2時～4時
- 2 場所 男女共同参画センターえーる 会議室
- 3 出席者 田村委員長 大倉副委員長 佐藤副委員長 山崎副委員長 加藤(志)委員 小幡委員
加藤(和)委員 佐々木委員 高原委員 中島委員 平林委員 堀野委員 渡辺委員
事務局(人権・男女共同参画課長 同係職員)
男女共同参画センター指定管理者
欠席者 大橋委員 西村委員 伊藤委員 片山委員 櫻井委員 居木委員 上原委員
- 4 公開の可否 公開
- 5 傍聴者数 なし
- 6 議題 (1) 前回会議要録の確認とホームページ掲載について 【事前送付資料】
(2) 令和元年度実施事業報告について 【資料1】
(3) 令和2年度事業年間計画(案)について 【資料2】
(4) 「第5次練馬区男女共同参画計画」策定の進捗について 【資料3】
(5) 令和2年度区民企画講座について 【資料4】
(6) フェスティバルについて 【資料5】
(7) 次回日程について
- 7 その他 (1) その他

8 <事前送付資料>

第16期第5回男女共同参画センター運営委員会会議要録(案)

<配付資料>

- 資料1 令和元年度実施事業報告
資料2 令和2年度男女共同参画センター事業年間計画(案)
資料3 「第5次練馬区男女共同参画計画」策定の進捗について
資料4 区民企画講座募集チラシ
資料5 男女共同参画センターえーるフェスティバルについて
参考資料 ワーク・ライフ・バランスセミナーちらし

9 会議の概要

【運営委員長挨拶】(省略)

【人権・男女共同参画課長挨拶】(省略)

【議題】

- <委員長> まず、議題(1)前回会議要録の確認とホームページ掲載について、この場で最終確認となる。事務局より事前に送付しており、特段指摘事項はなかったようだが、改めて訂正等、意見のある方はいるか(訂正なし)。それでは、決定とし、区ホームページに掲載する。(2)令和元年度実施事業報告について指定管理者に説明をお願いする。
- <指定管理者> 令和元年度実施事業報告について説明(説明省略)。
- <委員長> 令和元年度実施事業報告について何か質問はあるか。
- <委員> 保育は、自分たちで保育事業者をお願いしてやっているのか。
- <指定管理者> そうだ。
- <委員長> 満足度80%以上との話だが、こんな講座をやって欲しいとの声はあるか。
- <指定管理者> アンケートの自由記載欄では、パソコン、映画をやって欲しいという声が多い。
- <委員長> 他に何かあるか(質問等なし)。続いて(3)令和2年度事業年間計画(案)について(4)「第5次練馬区男女共同参画計画」策定の進捗についての説明を一括してお願いす

る。まず指定管理者に（3）令和2年度事業年間計画（案）について説明をお願いする。

<指定管理者> （3）令和2年度事業年間計画（案）について説明（説明省略）。

<委員長> 続いて事務局に（4）「第5次練馬区男女共同参画計画」策定の進捗について説明をお願いする。

<事務局> （4）「第5次練馬区男女共同参画計画」策定の進捗について説明（説明省略）。

<委員長> 第5次計画が固まっていない段階での説明ということになるが、何か質問等はあるか（質問なし）。次回、案が固まった段階で意見をいただければと思う。続いて（5）令和2年度区民企画講座について指定管理者に説明をお願いする。

<指定管理者> （5）令和2年度区民企画講座について説明（説明省略）。

<委員長> 何か質問等はあるか。（質問なし）。続いて（6）フェスティバルについて事務局に説明をお願いする。

<事務局> （6）フェスティバルについて説明（説明省略）。

<指定管理者> 公募の実行委員が決定したので、報告させていただく。公募委員は、20名で全員がフェスティバル実行委員の経験がある。運営委員20名とあわせて実行委員は、40名となる。

<委員長> 本日は、全員から意見を頂きたいと思っている。

<委員> 実行委員のメンバーが変わらないということで、今年と同様と考えられる。サブタイトルは、毎年決めると思うが、サブタイトルに沿った内容にしていかないと毎年やっている意味合いが深まらない。男女共同参画は、毎年問題が出てくるので、その年に合ったサブタイトルがいる。フェスティバルなのでお祭りの要素もあるが、発信していくことも大切だと思っている。サブタイトルは、出したからにはそれに沿ってみんなで作り上げていくが大事なことだと思う。

<委員長> サブタイトルを「女性が輝く」とかではない、その年に応じた明確な物が必要だと思っている。それに沿って作っていくのが理想だと思っている。例えば外国人も含めてサブタイトルにして、それに合わせた部会を作る。外国人でなくても貧困でもいいが、それに合わせた部会やグループを作る。この部分は、後で話し合えばいい。皆さん得意な分野、やりたい分野があると思うので、サブタイトルに合わせてやってもらえばいいと思う。

<委員> サブタイトルに合わせて、皆さんがまとまってやる。部会にするかそれ以外にするかは後の話だと思うが、実行委員が「私はこういうことが出来る」「私はこういうことが出来る」という形にしたい。

<委員> 今までフェスティバルについてここまで突っ込んだ話をしたことはないので、画期的なこと。何かを変えていくというのは相当なエネルギーがいる。今までやってきた良さや参加者が持っているイメージで、集まっている部分もあると思う。サブタイトルをあまり絞らずに間口を広げているというのも良さかなと思う。間口を絞ってやっていくと部会との関係も含めて、大変な作業になるなと思っている。メンバーが変わらないとのことなので、なおのことやりづらいと思う。私個人としてはまだ考えがまとまっていない。

<委員> 男女共同参画センターに相応しいテーマでやっていくということが必要。人を集めなければいけないので、歌等も大事。今の話を聞いてサブタイトルを決めてそれに向かってやっていくのも一つの案かも知れないと思った。女性の生き方部会は、その年の話題になったことについてやってきた。サブタイトルを作ってもらえるならそれに沿ってほしいと思う。

<委員> 日常の活動が大事。色々な活動をしている方々の1年間の成果やここで交流できることはとても素敵だなと思う。資料に「共生社会」とあるが、その前に「多文化」が付く。なぜそのような発言をしたかということ、光が丘にも青葉インターナショナルスクールが

あり、外国人と日常的に接触している。スポーツセンターでは、トイレを閉めない人がいると、「外国人よ」と発言する人もいるが「私は家では閉めない」という日本人もいる。新宿区では、外国人の割合が多く、多文化共生社会の審議会は、審議委員全員が外国人。外国人が日常生活でどんなことを感じているか、ハイジア（11階 しんじゅく多文化共生プラザ）の使い方、日本語指導をどうするか等を話し合っている。直接こうして欲しいというわけではないが、フェスティバルを変えていこうという時に外国人を委員に選ぶと違う発想が出てくると思う。急ぐわけではないが、頭のどこかに置いておくといいと思う。

<委員長> 3階の展示や例えばフラダンス、合唱等も含めて、個々の利用者をどうするかということもある。いつも使っている人ばかりで、他の人が使えない。展示できない。部会の問題だけではなく、そういう問題もある。フェスティバル実行委員会の中でどういう風にしていくのかも考えてもらいたい。

<委員> 千葉のことも鑑みると地震だけではなく、台風等の災害についても考える必要がある。観光だけでなく、日本に住んでいる外国人も増えているので、災害、多文化共生について考えていくフェスティバルになるといいと思っている。

<委員> 幸齢者部会に10年所属し、高齢者にとって何が大切かを毎年考え、部会活動をしてきた。実行委員になった時にえーるという場所が知られていないということで、これを伝えなければと思った。フェスティバルをきっかけとして、えーるに来る人が増えるのはとてもいいことだと思っている。どうなるかわからないが、部会等を取り外した時にどの様にやっていくのかをこれから考えていかなければいけないと思った。

<委員> フェスティバルについて違った形、角度から見るのは、大事だと思う。具体的には思いつかないが、練馬区に男女共同参画センターはここしかないのだから、ここから新しい発信をしていくことも大事なと思う。

<委員> 昨年のフェスティバルの参加者が少なくてビックリした。ねりま全体を見た時に人口が増えていて、若い人も増えている。えーるが広がっていくためには、新しい切り口や、会議でも若い人から意見を述べてもらおう等、若い斬新な意見を取り入れていく流れを作っていくことが大事。

<委員> 前回「2年同じタイトルで驚いた」「(サブタイトルについて) 絞った方がいいとの意見もあったが、手作りの方等がいるので、急激に変えるのは難しい」という矛盾した意見を言った気がする。ガラガラぼんにするといったときに「エッ」と思った人も結構いると思う。例えばテーマが男女共同参画にあったもので、きちっとしたサブタイトルがあれば、それに向かっていける人は行くだろうし、そういう風にカチッとしたものがないから、反対に今まで微妙な感じでやってきたかもしれない。実行委員は今までと同じということなので、そういった経緯も分かると思う。ここで方向決めても他に半分の方がいるので、サブタイトルは、実行委員会で話し合った方がいい。

<委員長> ここは、運営委員会としての意見なので、実行委員会がすべてそれに従うということではないが、ある程度方向性を出し、それに賛成・反対の人、ああ思う、こう思うと言えるようにしていきたい。

<委員> 方向性をここで出すのではなく、こういうのも出た、ああいうのも出たと実行委員会に出すのか。

<委員長> ある程度は、方向を出しておくが、全部を変えるということにはならないので、変えるところと残すところがでてくる。ここで合意できたところまでは出して、疑問点や意見がまとまらない箇所はそのまま出せばいいと思っている。

<委員> 先週、千代田区の男女共同参画センターMIW（ミュウ）のフェスティバルに行ってきた。一番面白いと思ったのは、憲法ゲーム（ボードゲーム）で、MIWは、千代田区役所の中にあるのに千代田区がよく許可したなと思った。あの辺りは大学が多く、中央、

日大、法政、明治の大学生が来てくれて、一緒にゲームをやった。ルートがあって、事前に声かけをしていると思うが、練馬区にも音大、日芸等大学があるので、頭を柔らかくして、こういうことをやってみたら楽しいかなと思った。委員が変わらなくて、歳がいつているから新しいことが出来ないと考えるのは、間違いだと思う。

男女共同参画センターなので、そこを見据えたフェスティバルであって欲しい。これは譲れない。手作り、音楽など盛り立ててくれるものはありがたいし、続けていただきたいと思うが、社会にこれだけ女性問題がある中で、このセンターの役目は常に考えていかないといけないと思う。前回のフェスティバルの女性の生き方部会で講演してくれた弁護士が、目黒の虐待事件のお母さんの弁護をしている。話を聞くとDVがいかに大変かとひしひしと伝わってきた。男女共同参画の役割を外してはフェスティバルの意味がないと思う。

<委員> この時期にサブタイトルを話し合うというのは画期的。サブタイトルは時流にのっとったもので、フェスの方向性を示せるようなものもいい。歌でもその歌の曲目を選ぶにあたって、サブタイトルに向くような曲を選んで行けば、みんなでその方向を向いていける。

<委員> 今年のサブタイトルはなんでしたっけ。

<事務局> 「誰もが自分らしく羽ばたこう」

<委員長> 今までのサブタイトルは、今の時勢とかそういうことではなく、男女共同参画を優しいなじみやすい言葉でという作り方だったと思う。これだと毎年同じようなサブタイトルになって印象に残らない。センターでやっていることが、今の時代に生き生きと伝わるものの方がいいかなと思う。一方で、皆さんの危惧もあったが、今まで努力してやってきてくださった方もいるし、催し物に参加してくださった方もいる。

また、ここは男女共同参画センターなのだから男女共同参画に沿ったテーマを選びたいということもあるし、男女共同参画センターを知ってもらうため、興味を持ってもらうため、一般の人に向けてそういう仕掛けを持った物が必要との2つの意見がある。

いつも2つがあって、どう組み合わせるかだと思う。それについてもう少し意見を出して欲しい。サブタイトルについても希望があれば出して欲しい。

<委員> 皆さんの意見をきくと、新しいものを目指したいという流れは感じる、それを具体的な物にするには何がいろいろということになるが、サブタイトルについては、実行委員会に運営委員会から「こういうもので」とおろすのではなく、方向性を示す。皆さんの声を聞くとサブタイトルに特化したものやしていきたいという方向性は出せると思う。実行委員会におろしたときにもっと具体的なものが出るかもしれないと思っている。多文化共生、外国人とかロゴが出てくることもあるだろうと思う。

若い人にとの声があったが、練馬区も武蔵大学、日本大学等があるが、若い人はほっておいたらダメ。実行委員の中には若い人はいないが、例えば、大学生が参加してくれるコーナーを設ける等、若い人を入れるための仕掛けづくりを事務局と協力しながらやっていくことが必要かなと思う。

サブタイトルに沿ったものをやりたいというのは実行委員会へおろせると思う。

今一番の問題は、やり方についてだと思う。部会が硬直化しているというのは皆さんの頭にはあると思う。ガラガラぼんと言った時に「私の部会はなくさないで」と直訴を受けた。皆さん経験上すごく思っている部分はあると思う。ガラガラぼんということでも、サブタイトルに沿ってやっていくのであれば、部会でもそれに沿うものができていくと思うが、今の部会の精査は必要だと思う。どこをどう精査するかは難しい問題だと思うが、以前、若者応援部会が食育部会へ変わったというのがあった。そういう流れもあると思う。実行委員会でも部会について精査する時間を持てれば、結果的に変わらなくても皆さんの意識が変わってくることがあると思うので、実行委員会で精査する

時間は取った方がいい。何部会は、何をやってきたとの説明の際に、この部会は、この名称でいいのか、この内容でいいのか、できているのかと考える時間が持てればいいと思う。

<委員長> 部会については、例えば、先程の防災や外国人のような今の社会情勢の中で、こんな部会も必要だということもあると思う。ただし、今の部会の数でいいのか、内容でいいのかと洗うことは必要。すべての部会を潰すとかそういう話ではなく、この部会はこういう風に変えた方がいいのではないか。こういうことを取り上げる部会もあった方がいいのではないかと考えた方がいいと思う。ただし、混乱するといけなから、皆さんでよく話し合ってもらいたい。自分の部会について愛着があると思うが、少しずつ変えていき、ノウハウを生かして、部会を展開していくというのはできなくはないと思っている。部会を部会員の物でなく、全員のものフェスティバルのものとする。サブタイトルに向かって動き、部会の中だけで決めるのでなくなれば、皆さんの意識も少しずつ変わっていくと思う。

<委員> 今まで、サブタイトルが弱い。サブタイトルにこだわっているわけではないが何かがないと考えられないし、意見も言えない。第一段階として、サブタイトルに対して、いままであった部会の方から「こういうことが出来るよ」と出て来るだけでも前進。「私たちはあっちの部会と一緒にやろう」とかそういう考えが出てきていい。「私たちは、仕事だから、今回は、サブタイトルと関係ないが、この仕事は運営する部分で必要なので、今までなんとか部会で担っていたのはみんなで担っていきましょう」等変わっていけばいい。

<委員> 部会は、ある程度やる人が固まって、やっていた。例えば、災害、多文化でもやりたいですと手を挙げて集まって、それが部会になっていく。イベント部会みたいに仕事をやっていく人は別として、サブタイトルに合わせてやりたいこと決めてやりたい人がやればいい。手作り、音楽は別だが、ここを知ることにもなるのでそれはそれでいい。

<委員> 日頃の皆さんの活動そのもの、ここで交流できることは一番嬉しい。男女共同参画として厳しく見ていくとこれはそうかなと思うところはあると思うが、映画や弁護士の講演会等ここでしか聞けないものだと感じた。それ以外は、大きなテーマに沿って、それぞれが目指すものに向かってやっていけばいいと思っている。

<委員> 若い人、10代、高校生を呼ぶには目線、考え方を合わせた部会がいるのではないか。

<委員> サブタイトルに関して、今まであんまり反映するという感じではなかった。新しい感じでやるならやるなりに部会で考えていきたい。

<委員> 部会ごとに中で変えていく話をした方がいい。

<委員> 今までなかったものをアドバルーン的にあげるのも大事かなと思う。

<委員> 今回のフェスティバルの時に自分の部会が男女共同参画センター主催ということに鑑みてどうだったかと一人一人考えれば、素晴らしかったので次のステップに進むという人もいるだろうし、考えて部会を変えていこう、新しく防災をやっていこうという等の意見が出てくると思う。

<委員> 部会は、えーるで自分たちがやりたいこと、好きなことを皆さん多分やっていると思う。そこでガラガラぼんを強調すると反発がでる。委員長、副委員長が上からおろすのではなく、皆さん考えてやってくれているので、それを重視して、サブタイトルに向けた形で考えてもらう。変えていく方法としては、新しい部会を追加で作る方が楽だと思う。新しい部会をやりたい人がいれば、1つくらい増えると新鮮味もでる。既存の部会ももっと見習っていくかもしれないし、内容を理解してもらってフレキシブルにやってもらおう形にしないと盛り上がらないと思う。

<委員> 部会の紹介の後、新しい部会を作りたい人が立候補して作ればいい。今年のフェスは終わっているが、もう来年に向け既に考えている部会もある。

<指定管理者> やりたいことをやる部会と、やらざるを得ないことをやっている部会がある。それを同じように扱うかどうか。そこも問題だと思う。例えば、イベント部会や庶務部会は当日やらなければいけない事がたくさんある。その作業が果たしてやりたいことなのかどうか、やりたいことがあってやっている部会とそうじゃない部会があるということを考えて欲しい。

ここにえーるというものがあることを知らせねばならぬということも大事なこと。フラダンス、手品、お絵かき、文化的な展示の意味も考えていただきたい。今のところ参加できるのは、ここにきている人達。例えば光が丘でフラダンスしている人が参加する等、広げてもいいのかどうか。そうしないといつまでたっても石泉地区のお祭りのように思われてしまう。その2点をどうぞ皆さん念頭に置いて考える種にして欲しい。

<委員長> 実行委員会の事務局からも部会は、やりたいことをやっている部会だけではない部会もあって、そういう部会についてもどういう風にしていくのかと。各部会が分担してやるとか。いろんな方法が出てくるかもしれない。空いたところに新しい部会が出来るかもしれない。

「サブタイトルを決めて、その年に打ち出したいことを明確にする。歌、展示等催し物は別として、それに沿った形で部会になるかどうか分からないが活動をしていく、そのために部会の体制もどうしていくかを検討しました。」と10月17日の実行委員会で報告する。今日はありがとうございました。

先ほど言い忘れたが、区民企画講座検討部会の日程を調整するので、部会員の方は、運営委員会後、ホワイトボードの前に集まってもらいたい。

<事務局> 部会員の確認（省略）

【その他】

<委員長> それでは、次回の開催日程を決めたい。

— 日程調整（省略） —

<委員長> それでは、次回は 令和2年1月23日（木）午前10時から開催させていただく。続いて、事務局からお願いします。

<事務局> ワーク・ライフ・バランスセミナーについて説明（省略）

<副委員長> （閉会の挨拶）